

## 第4回都市計画審議会交通政策分科会（令和5年10月27日） 議事録

日 時	令和5年10月27日（金） 午後2時00分～午後4時00分
場 所	尼崎市役所北館4階 4-1会議室
出席委員	三古委員 松村委員 宮野委員 和田委員 森口委員 奥野（雅）委員 奥野（裕）委員 野津委員 岡委員 平尾委員 平之内委員 平瀬委員 酒井委員
傍 聴 者	なし
議 題	目標実現に向けて （1） 基本方針と目標の再整理 （2） 具体的な取組の検討
配布資料	資料1 基本方針と目標、施策体系 資料2 計画書（たたき台）

### 1 議題

#### 1) 基本方針と目標の再整理

- 施策体系について、まちづくりの要素を重視する中で目標1と3を入れ替えた。また、施策を横断する要素もあることから、新たに上位計画の主要取組項目をもとに、計画推進の視点を取り入れた案を提示した。  
(委員意見なし)

#### 2) 具体的な取組の検討

- 計画書（たたき台）を確認しつつ具体的な取組について、意見交換を行った。
  - 路線バスによる自動車教習所の無料送迎バスの代替の取組は前回の会議でも画期的というご指摘があった。例えば路線図で強調するなど取組を取り上げてはどうか。
  - 徒歩の視点を入れるにあたり、都市計画マスタープランでは「歩道の休憩スペース確保等による安全で快適な歩行者空間の整備」と挙がっており、総合交通計画で取り組む「バス待ち環境の改善」と関連させることができるのではないか。
  - シェアリングの利用促進をしていくためには、ポートの数だけでなく夏の日差しや雨風をしのぐこと、自転車を出しやすいことも重要である。市民として生活しているとシェアサイクルポートが増えた実感する。ポート数を増やす時期なのでやむを得ないと思うが、利用されていないからとこの施策が終了してしまうことを恐れている。バスに乗った人にはプラスで何かやっていくなど、お互いに組み合わせるとそれが新たな尼崎の取組という形になるのではないかと期待している。
  - 駅周辺の特色を生かしたまちづくりの推進のところで具体的に市民の取組が上がってきていて、市民も関わるというのがはっきり出てきたのですごく良くなったと感じている。具体的に取組が上がってきたことで、駅の特色が少し浮かび上がってきた感じもしている。市民との協働の視点では、例えばバスの運行状況を情報公開することによって乗って支えるという市民の意識につながっていく側面もある。
  - まちづくりの指標としては市民参画指数などの市民意識だけでなく、交通の分野に焦点を当てた指標が必要ではないか。例えば駅の中の利用促進という話があるならば、駅の利用者数が10%増とか、そういう形の設定というのもあり得るのではないか。
  - 目指す姿や将来像を踏まえ、全体で共有できる大きな数値目標を立てる必要があるのではないか。総合交通計画は何のためにあるのかということ、市民の方々にも尼崎の公

---

公共交通がよいほうに行っているのか、それとも黄色信号なのかということ判断するためという目的もある。

- 都市計画マスタープランでは臨海部、JR、阪神、阪急という路線別に地域別構想を立てているが、総合交通計画の場合はどうか。交通というのはネットワークなので、尼崎全体を1つとして考えるというのもあると思うが、市民の方がまちづくりの活動をやるといような狭域の話になると地域ごとの特徴も出てくるのではないかと思う。
- 金剛バスがいきなり廃止したというニュースを見たが尼崎は大丈夫かと感じたところである。それが「持続可能な公共交通の構築」等にどのように盛り込まれるのか。一案として外国人のドライバーはあり得る。いろいろ考え方はあると思うが、都市部であるから外国人の労働者をうまく制度的にマッチさせていくというのはどうか。

## 2 その他

- 事務局より資料に基づき、スケジュール等を説明

以 上